

セラピー犬は中学生にどのような心理的効果を及ぼすか？(3)

— 唾液クロモグラニンAと唾液中コルチゾール, POMS2の変化から —

高野恵代¹・坂田陽子¹・青木潤一²#

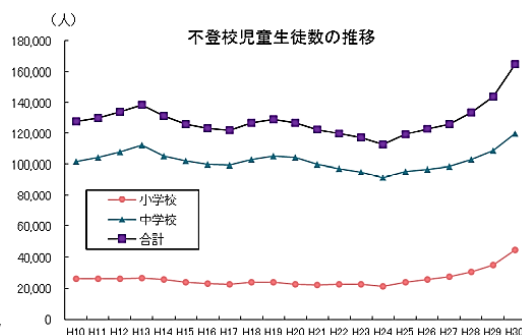
(¹愛知淑徳大学心理学部・²同志社中学校)

※本研究は愛知淑徳大学の研究助成を受けて実施された (研究課題番号19KD04)

問題と目的

中学生のメンタルヘルス問題

- 不登校, いじめの問題
 - ・ 年々増加傾向
 - ・ SCやSSWの派遣, 不登校対応教員の増員, 適応指導教室の設置促進など多様な施策
- 対人関係能力の低下 (佐藤, 2017)
 - ・ 対人関係スキルが低い子どもが他者に相談し内面を開示することは困難?



動物介在療法(Animal Assisted Therapy; AAT)に着目する!

問題と目的

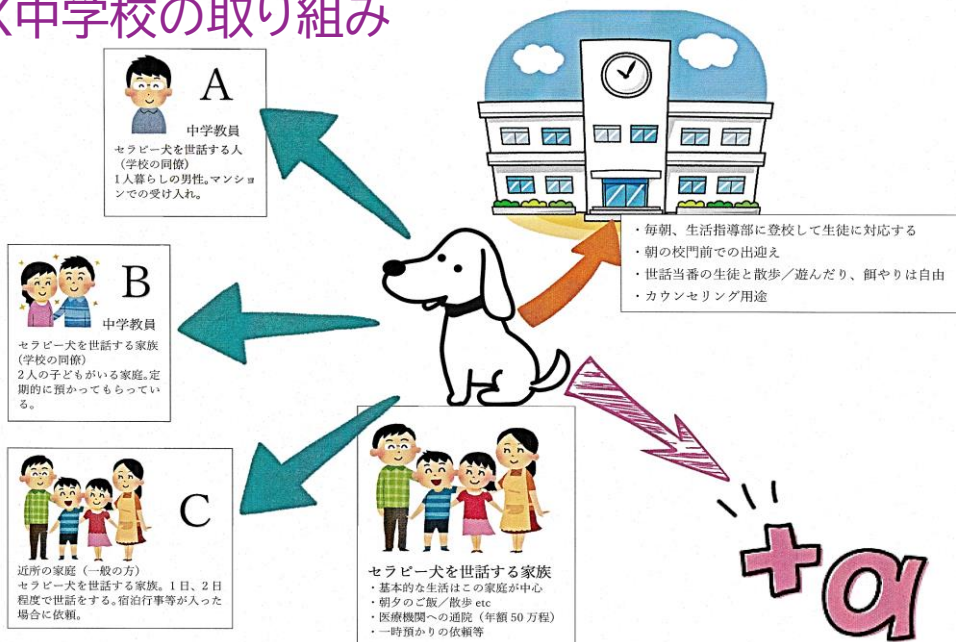
■動物介在療法(Animal Assisted Therapy; AAT)

- ・ 認知症高齢者支援等にも実践されている
- ・ 他者との困難さを低減する支援方法の1つ
- ・ 不登校傾向のある生徒にAATを実践(飯田・熊谷・細萱・栗林・松澤, 2008)
 - ➡ 動物と触れ合うことで精神面の安定をもたらし, エネルギーが上昇
- ・ 中学生を対象にした実証的な研究は見当たらない

■本研究の目的

POMS2と生理的指標(唾液中クロモグラニンA, 唾液中コルチゾール)を用いて, セラピー犬と実際に交流する群と統制群で効果を比較する。

私立X中学校の取り組み



『スーちゃん』の紹介

2016年3月20日生まれのラブラドルレトリバー♀。
 生後1年間はパピーウォーカーの家で生活していました。
 盲導犬訓練所で約1ヵ月間訓練を受けたけれど不適合となり、X中学校の先生が譲り受け、2017年6月にX中学校にきました。
 日中は「サポートルーム」※2で生活。
 お散歩や食事は、スーサポーターが担当してくれていて、
 みんなには、スーとかスーちゃんって呼ばれています。

※2：不登校傾向のある生徒や、生徒の悩み相談など多岐にわたる支援を行う部屋



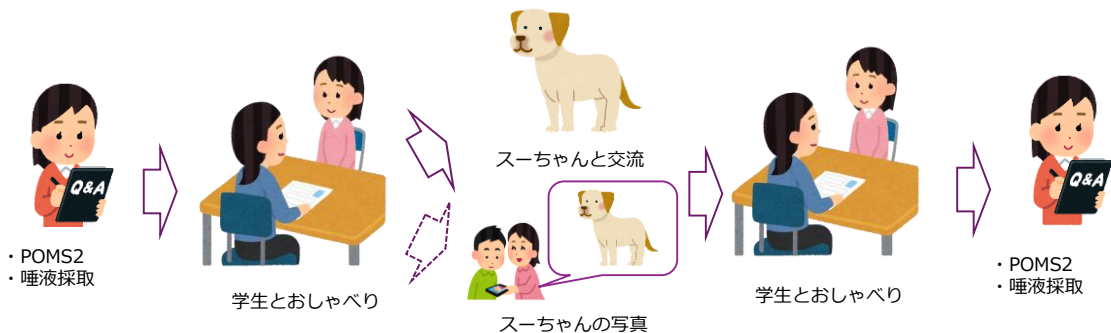
ラブラドルレトリバーのスー♀

方法

- 対象者：私立X中学校の生徒17名 → 実験群8名，統制群9名
- 実施時期：2020年1月～2月
- 要因計画：時期（プレ・ポスト）× 群（実験群・統制群）の2要因混合計画

実験群

統制群



結果と考察

■時期（プレ・ポスト）× 群（実験群・統制群）の2要因分散分析結果

Table 1 各群における実験前後のPOMS2得点とクロモグラニンA, 唾液コルチゾールの分散分析結果

	時期	犬有群 (n=8)		犬無群 (n=9)		群の主効果	時期の主効果	交互作用
		平均	SD	平均	SD			
POMS2	プレ	38.50	9.78	43.22	15.27	ns	19.63***	ns
	ポスト	25.75	10.04	37.00	12.29			
クロモグラニンA測定値(pmol/mL)	プレ	5.11	3.53	3.74	2.25	ns	3.25 [†]	ns
	ポスト	3.52	1.22	3.07	1.83			
唾液コルチゾール(μg/dL)	プレ	.06	.01	.16	.14	4.65*	ns	ns
	ポスト	.08	.04	.18	.13			

[†]p < .10, *p < .05, ***p < .001

- POMS2とクロモグラニンA : 時期の主効果 ➡ プレ > ポスト
- 唾液コルチゾール : 群の主効果 ➡ 実験 < 統制群

結果と考察

■まとめ

- ・ 両群とも実験後はストレスが低減
 - ➡ セラピー犬, セラピー犬の写真でも効果あり?
- ・ AATの継続が生徒自身の活動性を高める(飯田ら, 2008)
 - ➡ 一時的でもストレスは低減, 癒やしの効果?

■今後の課題

- ・ 語るというカタルシス効果の影響
 - ➡ セラピー犬が登場しない条件で実験を行う必要あり

